異なるアミン比を有するポリエチレンイミンを電子注入材料と して用いた逆構造有機発光ダイオード

Inverted organic light-emitting diodes using polyethylenimine with different amine ratios for electron injection materials

[○]真弓 隆洋 ¹, 高田 誠 ¹, 森井 克行 ², 永瀬 隆 ^{1, 3}, 小林 隆史 ^{1, 3}, 内藤 裕義 ^{1, 3}

(1. 大阪府立大, 2. 日本触媒, 3. 大阪府立大分子エレクトロニックデバイス研)

[○]T. Mayumi ¹, M. Takada ¹, K. Morii ², T. Nagase ^{1, 3}, T. Kobayashi ^{1, 3}, H. Naito ^{1, 3}

(1. Osaka Pref. Univ., 2. Nippon Shokubai CO., LTD, 3. RIMED)

E-mail: takahiro.mayumi.oe@pe.osakafu-u.ac.jp

1. はじめに 逆構造有機発光ダイオード (inverted organic light-emitting diode:iOLED®[1]) は金属酸化物を陰極として用いているため(金属酸化物から発光層への電子注入障壁が大きいため)、電子注入の改善が課題となっている。近年では、電子注入材料として poly(ethylenimine) (PEI)を用いることで陰極の金属酸化物と PEI 間の電気双極子により、電子注入障壁を低減できることが報告されている[2]。本研究では、異なるアミン比を有する PEI (P-1000, SP-200, SP-003)を用いた iOLED®の作製を行い、素子特性評価を行った。

2. 実験 AZO (Al を添加した ZnO)(150 nm)/PEI/poly(9,9-dioctylfluorene-alt-benzothiadiazole) (F8BT) (100 nm)/MoO₃ (10 nm)/Al (50 nm) なる素子構造の iOLED®を作製し、封止剤により封止した。電流-電圧特性測定は、Keithley 2611、輝度-電圧特性測定には、Konica Minolta CS-200、光起電力測定[3]では、光源として Asahi spectra HAL-320 を用いた。なお、すべての測定は大気中で行った。

3. 結果 異なる PEI を用いて作製した iOLED® の電流密度-電圧特性および輝度-電圧特性を Fig. 1 に示す。250 mA/cm² での輝度と最高電流効率を比較したところ SP-003 を用いた iOLED®が輝度 21000cd/m²、電流効率 11 cd/A、SP-200 を用いた iOLED®が輝度 17000 cd/m²、電流効率 9.4 cd/m²、P-1000 を用いた iOLED®が輝度 17000 cd/m²、電流効率 9.0 cd/A となった。素子特性と PEI の相関を調べるために、光起電力測定から素子の内蔵電位を評価し、AZO/PEIと F8BT間の電子注入障壁を求めた。AZO/PEI/F8BT/AI 構造の素子における正味の光電流一電圧特性を Fig. 2 に示す。Figure 2 から得られた Vbi より見積もっ

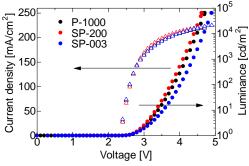


Fig. 1 Plots of current density and luminance versus voltage characteristics of iOLED®s.

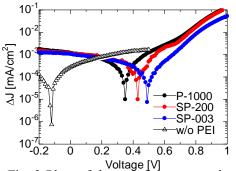


Fig. 2 Plots of the net photocurrent density versus voltage characteristics.

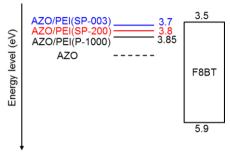


Fig. 3 Energy diagram with PEIs.

た陰極の仕事関数を Fig. 3 のエネルギーダイアグラムに示す。PEI の種類により、電子注入障壁の低下量が異なることが明らかになり、最も高い電流効率を示した SP-003 を用いた $iOLED^{@}$ が最も注入障壁が小さく、0.2~eV となっていることがわかった。以上の結果は、1~a級アミン含有量が多くなると、 $iOLED^{@}$ の電流効率が高くなる(電子注入障壁が低くなる)ことを意味している[4]。

<u>謝辞</u> 本研究の一部は、科学研究費補助金及び新学術領域研究「元素ブロック高分子材料の創出」(JSPS 科研費 JP24102011)の助成を受けた。本研究で用いた F8BT を提供して頂いた住友化学株式会社に深く感謝いたします。

参考文献 [1] K. Morii *et al.*, Appl. Phys. Lett. **89**, 183510 (2006). [2] Y. Zhou *et al.*, Science. **327**, 336 (2012). [3] G. G. Malliaras, *et al.*, J. Appl. Phys. **84**, 1583(1998). [4] https://www.shokubai.co.jp/ja/products/functionality/epomin2.html